

邁杖榮孤遠積雪
重勞輕求深願達
於先聖受真教於
庶之國惣將三藏
蒼生罪而還福濕

図版②

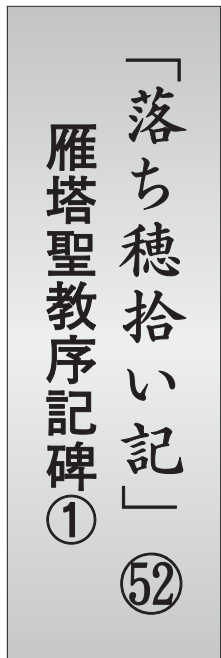
記碑



序碑



図版①宇野雪村先生筆題簽



図版⑤



不可思議な筆画に★を付した

図版④原帖



図版③戦前の影印本



大学の3、4年生頃に初めて「争座位帖」を入手してから程なく褚遂良の楷書の名品「雁塔聖教序碑」(清末拓原刻剪装本)も入手した。毎週、書法の指導受けていた宇野雪村先生(1912、1995)に稽古後に見ていただいた事があった。何処で購入したのかなどと質問されながら、この碑の拓に関することなどを種々話された。表紙の題簽が未記入であるのを目に留められ、そのまますぐに筆を執られて、「雁塔聖教序并記 雪村題」とやや褚遂良風な趣に書いていただいた。この「雁塔聖教序碑」は、何時の折かに手放した。卒業後は、宇野先生から離れたので、あの折の美事にかかれた先生の題簽は、思い出深く手放すのが惜しくて剥がして今でも大事に残してある(図版①)。これまでに雁塔聖教序碑の拓本は、数多く目にしてきた。二十代頃に求めた雁塔聖教序碑の拓では、上述の剪装本以外に整拓本がある。この碑は、序碑と記碑の二碑からなる。新宿あたりの文房四宝を扱う店で未装の同じ整拓本が数種あり、広げて何度も比べながら選んで購入した記憶がある。それを自分で裏打ちし、A4ほどの大きさに折りたたみ、保存している(図版②)。この碑は保存が優れているので、整拓本では、碑の全体を、また近拓でも十分に原碑の本来の書風を見ることが出来る。購入拓本は、旧拓では無いが、拓紙が薄く、文字の細かな点画まで丁寧に拓出され、影印の旧拓善本以上に字画が鮮明であった。表紙に示した拡大の「朝」字は第2画から3画目にかけての細い連綿線をみる事ができる。同系の拓調で、戦前から比田井天来の書学院から出版されている雁塔聖教序碑がある(図版③)。比田井南谷先生がご存命の折に原帖(図版④)を拝見し、依頼されて書帙を作り直すために自宅に持ち帰ったことがある。この書学院所蔵の雁塔聖教序碑の拓本は、南谷先生によれば、松田南溟が、整拓本を剪装して1頁8字の2冊の袖珍本として装本したさうである。家蔵の整拓本と同じ拓調の清末の精拓本である。この原拓の袖珍剪装本を学ばれた天来先生等が、書法上の疑問点などがある字画部分に金点や朱点を付された。このことが話題になり、戦後も幾度も再版された。以前から雁塔聖教序碑には、不可解な点画のある文字が数多く指摘されている。そのうち3文字を(図版⑤)に示した。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

(公社)全日本書道連盟 第188回理事会開催

3月7日、上野精養軒にて今年度最後の理事会が開かれました。今回は議事に入る前に、文化庁参事官の文化財調査官吉野亨様から、昨年12月に「書道」が、令和5年度ユネスコ無形文化遺産（人類の無形文化遺産の代表的な一覧表）への提案が決定した経緯について説明がありました。

新規提案案件「書道」

○対象 筆、墨、硯、紙等の用具用材を用いて、漢字、仮名、漢字仮名交じりの書、または篆刻として、伝統的な筆遣いや技法の下に手書きする文字表現の行為。

○担い手 日本書道文化協会

理事会の主な議事内容

1. 日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動報告
2. 書写書道教育推進協議会の活動報告
3. 令和5年度書道講演会の報告
4. 令和5年度助けあい募金の報告
5. 内閣府立ち入り検査の報告
6. 令和6年度事業計画案、収支予算案資金調達及び設備投資の見込みについて

7. 令和6年度総会・令和6年度書写書道教育講演会について（6月6日）

講師 松本仁志先生（広島大学教授）
令和6年度夏期書道大学講座について（8月2日～4日）

- 楷 書 堀 吉光
- 行 書 山口啓山
- か な 齊藤紫香
- 筆 塚 志 西林大輔
- 篆 刻 真鍋井蛙

(公財)書道芸術院通常理事会開催

今年度最後の通常理事会が、3月10日、本院事務所にて開かれました。



書道芸術院通常理事会

審議事項

- 1) 第78回書道芸術院展関係人事について（昇格、移籍、退会等）
 - 2) 令和6年度単位認定講習会について
 - 3) 秋季展について
 - 4) 書道芸術院前衛書展の開催について
 - 5) 創立記念日の講演会講師について
 - 6) 書道芸術院第75回毎日書道展出品者懇親会について
- ### 報告事項
- 1) 書道芸術院教則本の経過について
 - 2) 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告

第75回毎日書道展記念毎日現代書道展「今をえがく書かながわ」開催

毎日書道展が、今年度第75回展を迎えるにあたり開催される巡回展の第一陣が、3月16日～24日、さとう横浜店のさとう美術館にて幕開けとなりました。作品は全国巡回展作家55名の他、神



巡回作家展示会場 (1部)

奈川の作家262名という総数でした。この巡回展は、他4会場で開催されますが、各地それぞれの企画が考えられています。作家層の厚い神奈川では、神奈川の歴史に名を残した先達の息遣いの残る傑作を特別展示し、小・中・高校生のがき作甲入会やギャラリートーク、常任顧問や若手による席上揮毫など多彩な企画で盛況でした。

皇居三の丸尚蔵館開館記念展 皇室のみやびー受け継ぐ美ー

三の丸尚蔵館は、昨年11月から新館の一部開館を記念して、当館の代表する収蔵品を4期に分けて、紹介していきますが、3月12日～5月12日まで、第3期展が開催されています。

第3期は「近世の御所を飾った品々」で、書としては藤原定家の「更級日記」や伝藤原行成の「雲紙本和漢朗詠集巻上」、八条宮智仁親王の「古歌屏風」などが展示されています。注目したいのは、この桃山時代に書かれた古歌屏風で、六曲一雙の右隻は「千載和歌集」が、左隻は「新古今和歌集」がそれぞれ6首ずつ書かれています。右隻の文字は当時としては珍しい中字かなで、ゆったりとした自然な行書きですが、対して左隻は、かなりユニークな散らし書きをして変化を持たせています。

他にも伝狩野永徳の「源氏物語図屏風」や円山応挙の「源氏四季図屏風」などがあり、近世の御所や宮家を飾った工芸品、楽器の数々でひと特別世界に浸れます。

現代詩文書基礎基本講座 (47)

小竹石雲

今月もQ&A形式による小竹先生の自作解説です。

問 薄田泣菫の詩で「真理を愛でかつ 押む」とありますが、これを書こうと思った理由は何か？

同郷ということと、人間のやる仕事は真理の探求がその根底にないといふ仕事にはならない。書作も同様との思いでこの詩を選んだ。

問 用具の工夫は？

字句の重みに合わせて、落ちつきを出すためにも茶染めの紙を使用してみた。濃墨と、保墨力のよい羊毛筆を用いて、骨力と潤いを調和させることに重点を置いた。

問 やはり、「愛」がポイントでしょうか？

はい。ポイントは「愛」に置いた。字の上部を左に発展させ、最終画を右下に長く伸ばすことにより大らかさが出たと思う。木簡調を強く出すことで漢字とかなの調和も図れたように思う。

問 方形の作品のまとめ方を教えて下さい。



縦作品は流動美の追求、横作品は横への展開に適する。方形は構築性の探求に向いている。

かなの寸松庵や升色紙の散らしが参考になる。余白美の探求と言いかえてもよい。広い展示会場が我々の書作発表の場であるから、方形の場合はまず構築性を主として、その中で余白の生かし方を考えるという順番になる。具体的には文字の大小の変化と潤濁の工夫が大切だ。この作品でも、もう少し渴筆が入ればより作品が立体的になっただろうと反省している。

第50回「日本の書展」現代書壇代表

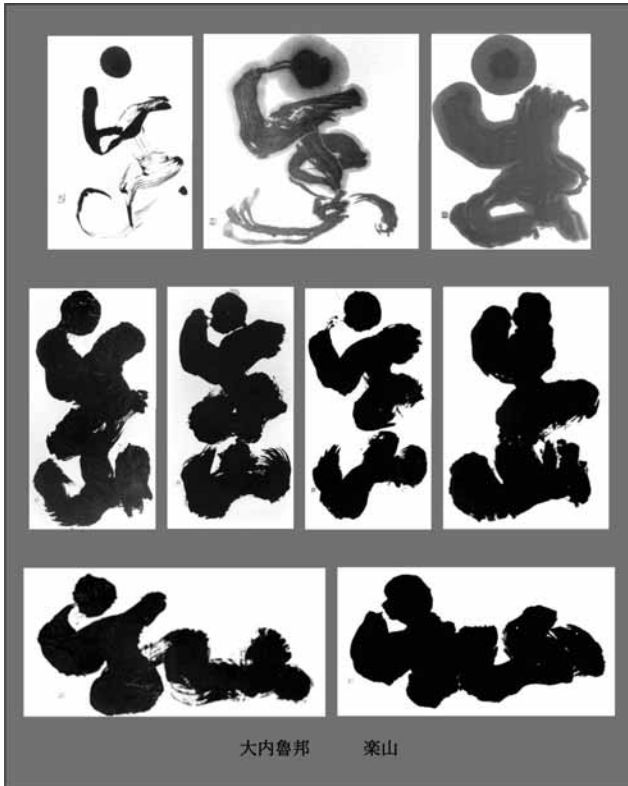
基礎基本講座

前衛書基礎基本講座 (23)

千葉蒼玄

言葉は、単なる文字の羅列ではなく、その背後に様々な感情や意味が宿っている。芸術や文学は、言葉を通じてその深層に迫り、人の心に触れることができるものだ。わが師である大内魯邦先生は、言葉を大切に、修行僧のように同じ題名で、前衛的な作品を何点も発表したことは、書の可能性を追求し、新たな表現の道を模索した結果と言える。

「楽山」(仁者楽山) という題名からも、言葉という素材を通じて喜びや仁愛、そして山のような大きな存在感を表現しているのかもしれない。言葉が心に響く瞬間、その美しさや力強さが芸術を生み出すのだろう。



大内魯邦 楽山

仁者楽山(仁徳の備わった人は、欲に動かされず心が穏やかでゆったりとしているので、おのずから安定したどっしりとした山を愛するものである)

書道芸術院 令和の群像 (2024)

前衛書くその先へく

伊澤香雨

私が今日まで書が続けてこられたのは、二人の師とかけがえのない書友のおかげです。

まずひとり目は大内魯邦先生。小学校1年生の頃、学校のそばにお住まいになっていた大内先生のお宅にお習字を習いに行っ

たのが始まりでした。お手本を見ながら一生懸命まね、朱墨で大きな丸をいただくのが何よりの喜びでした。大学の頃、地元に戻られた先生のもとへ電車で毎週通いました。そうしていつしか前衛の道へ。大きな白い紙に筆の線で黒の構成をしていく造形の楽しさを知りました。

そして教員になりたての頃に出会ったのが千葉蒼玄先生。先生は遠近法を使ったり、白と黒の配置や重なりで奥行きを表現したりする手法などをわかりやすく指導してくださいました。前衛の旗手としてどんどん新しい作品を作り出す姿を通して多くのことを学ばせていただきました。私たちも次

にどんなことをしていこうかと思いを膨らませることができました。先生方には、構成と線質という前衛の土台、そして、この先へという前衛作品制作の根本を教えていただきました。思いはあってもなかなかそこに至らない歯がゆさを感じながら精進しています。

掲載の作品は、2016年の「みやぎを魅せる書展」に出品した大作です。私には30年以上ともに書を学んだ書友がいます。いつもそばで支え励ましてくれた姉のような存在です。切磋琢磨しながら学び合い、いつもそばにいるのが当たり前のようになっていました。その彼女が2016年、病に伏せてしまいました。私は病院に見舞いながら回復するのを祈り続け、作品制作をしました。作品左上の大きな塊は太陽のような彼女です。その太陽に手を差し伸べ、今度は私たちが支えるべく力みなぎる線で下部を書き上げました。大きな紙面に圧倒されそうになりながら、尾脇の長峰筆2本を握りしめて力を込めました。その彼女は5月の展覧会を見ることなく逝ってしまいました。

前衛書は、心のありったけを表現できるというところが大好きです。夏の暑い日、汗だくになって書き込んだり、紙の上を走り回るように書いて、疲れて寝ころんだり、そうやって作品に気持ちをぶつけていけるところが魅力です。

これからも、先生方や逝ってしまった彼女に恥じない作品を求め、その先を見つめながら、心を込めて書いていきたいと思えます。



みやぎを魅せる書展 (2016) 「俤」 (270×180)

伊澤香雨書

第77回書道芸術院展
〈1〉

書道芸術院春華賞



現代詩文書部
大平 邑峰

この度の書道芸術院展おきましては
思いもかけない春華賞の受賞、師の小
竹石雲先生を始め、院の先生方や書友
の皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と心か
ら感謝いたしております。

早いもので、初出品から50年の歳月
が経ちました。この間、院の活動にお
きましては毎年の院展を始め、様々な
場面で多くの経験をさせて頂きました
が、書作面での成長は牛歩の如くであ
り、申し訳なく思っております。



「旅空」

大平 邑峰

一昨年から始
まった役員の互
評会、作品作り
に対する意識を
新たにする契機
になりました。
新鮮な感情がわ
き起こった瞬間
を大事にして、
これからも前向
きに努力して参
りたいと思いま
す。

書道芸術院大賞



現代詩文書部
佐藤 祥扇

お蔭と深く感謝しております。
振り返ってみますと、娘達と一緒に
山田魯江先生の教室に通い始め、山田
梓江先生とお二人に手ほどきを受け、
三十数年「継続は力なり」、その言葉
に励まされ、今日まで書き続けるこ
とができました。

受賞作品「長崎県のわらべうた」は
かなのみの作品で、しかも同じ文字が
何度も出てくるため変化をつけるのに
苦労し、言葉遊びの面白さを表現する
ことにも心掛けました。その点を評価
されたことは私にとってこの上ない喜
びです。

受賞を新たな出発とし、今後も自己
表現できるよう精進して参ります。



「長崎県のわらべうた」

佐藤 祥扇

書道芸術院準大賞



「心月」

石黒 和喜



「白い鳩」

大友 汐苑



「いく坂を」

木村 関泉



「軌」

小松 美恵



「寄李提舉」

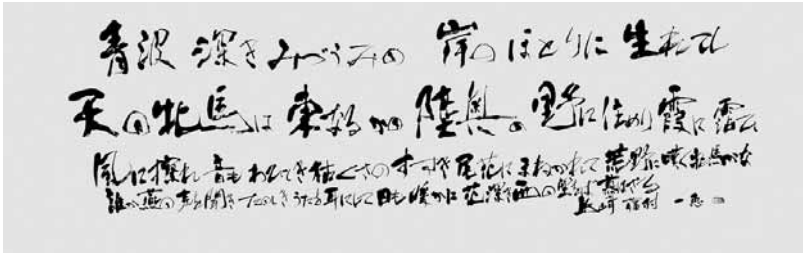
宇田川春華

白雪紅梅賞



「泡沫の夢」

大里 香溪



「牝馬」

長南 一恵



「杜甫詩」

徳永 溪泉



「朱子家訓」

小関 瑞華



「Nymphaea」

工藤 史音

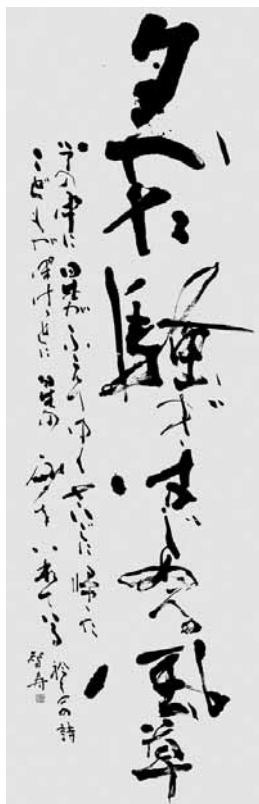
白雪紅梅賞

「雪花」



田村 紅沙

「星」



山崎 智寿

「古風其の十八」



森 一徑

「自詠詩 梁川城秋景」



半澤 香舂

「登辨覺寺」



服部 照琴

〈第76回展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉

大作
田子
白嶺



「あさみどり」

153×340cm



大作
寺尾
京華

「今 この瞬間」

242×350cm

漢皇昔也思傾國御宇多年未得揚家有如却長成美在
深淵人未識天生麗質難自棄一朝選在君臣例四隣一雙百
媚生六宮粉黛無顏色春寒賜酒華清池温泉水滑洗凝脂
侍兒扶起嬌無力始知承恩在深院當時光華色色色色
曉度春宵春宵苦短日高起從此君王不早朝承歡侍宴
獨坐承恩春遊夜遊夜遊宮中三千人三千寵愛在一身金
屋藏嬌嬌侍夜玉樓宴醉舞輕羅小扇秋風初生已覺
坐門戶遙冷天下皆心及生者男男生女兒宮高入青雲
坐臥無憂一聞歌舞聲聲聲聲聲聲聲聲聲聲聲聲聲
鼓物地東驚破霓裳羽衣曲九重城闕煙生五千里萬
行軍半路行軍上出都門可憐望六軍不發無衣河
城眉為前死花如春地無人快聲怨聲怨聲怨聲怨聲
不得田看血津和流黃髮無光日色薄蜀江水碧蜀山
青玉顏憔悴行宮見月傷心色夜山聞鈴聲蜀山青玉
顏憔悴到此路端不能去馬嵬坡下泥土中不見玉顏
空死灰君臣相顧盡沾衣東望都門信馬歸車池絕望
淚滿衣芙蓉小苑東邊柳絮飛御溝流淺水波流笑
語哀聲喚阿嬌如面却如眉對此如何不淚春風桃李
開日秋而枯相華滿地西宮南內多秋草宮葉滿階紅
不掃梨園弟子白髮新新屋門望青娥老夕陽殘照
猶見宮中第一道成道鐘初長夜秋望河秋望天
華重寶翠金象自與共悲：生死到後年魂魂不
幽那近七游都宮能以銷魂魂魂魂魂魂魂魂魂魂魂
士願動鬼神相空秋秋秋秋秋秋秋秋秋秋秋秋秋秋
泉為流花暗不見恩關海上看任山在虛無錦綉閣
現玉堂起其中綉約多少位中有一人字玉真香
香是金闕西門呼玉真香香香香香香香香香香香
大筆飛雲紫雲龍飛龍飛龍飛龍飛龍飛龍飛龍飛
空繁華傳新曉曉曉曉曉曉曉曉曉曉曉曉曉曉曉
似霓裳羽衣舞玉容寂寞花開千樹花一枝香香香
凝眸謝君一別音音西沙花開曉曉曉曉曉曉曉曉
月長田頭下望人望人望人望人望人望人望人望
合金釵寄與去秋留一枝金釵寄與去秋留一枝金
望天上人間會相見時別教動動動動動動動動動
日長生殿夜半無人私語時在天願作比翼鳥在地願為連
理枝天長地久有時盡此恨無期無期無期無期無期

大作
森地
桂鶴

「長恨歌」

240×360cm

古典鑑賞

467

佐理書状① (恩命帖)

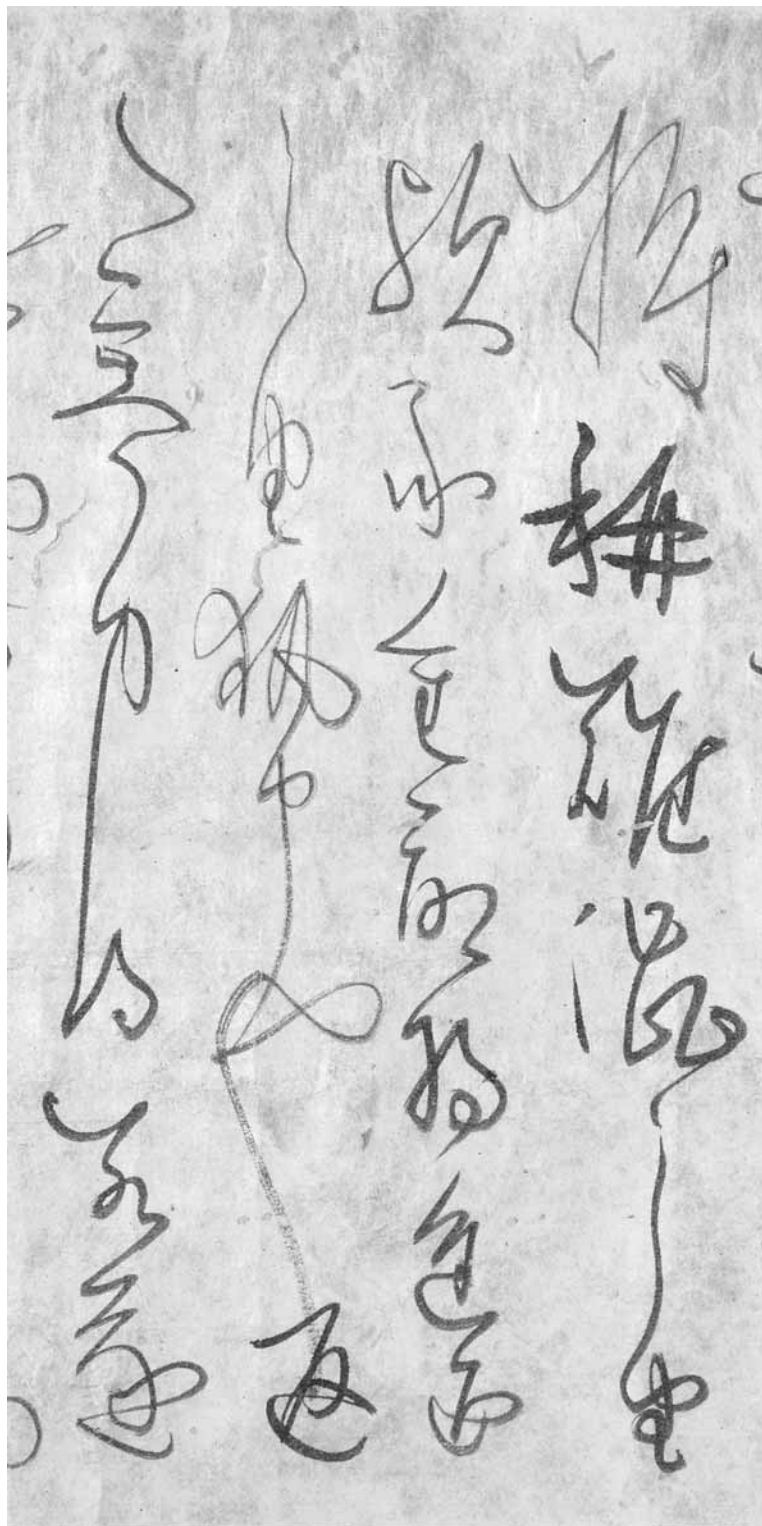
〈解説〉藤原佐理(944~998)は、「三跡」のひとつで、小野道風(894~966)と藤原行成(972~1027)の間をつなぐ存在と言える。この3人の活躍により和様書道は確立した。今回は佐理の書状を3種類取り上げ順番に解説する。今月は「恩命帖」。佐理39歳の書状である。天元5年(982)、宮中で行われる弓技を競う行事の矢を調達する担当となったが、手違いが生じたため間に合わなくなったことについての詫び状である。相手は不明だが、

高位の貴族である。

各行の筆致は流麗に展開され、文字のデフォルメや大小の変化は自在である。骨格を内に秘めた独特の草書体であり、ところどころ息の長い連綿が用いられる。速筆のようではあるが実際は遅筆である。じっくりと臨書したい。

(P55に骨書きを掲載しました。)

(編集部)



将称難決之由/歟。承重命、将進返/之由執申也。返々々参申侍。若遂

(宫内庁三の丸尚蔵館蔵)

※掲載図版70%に縮小

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

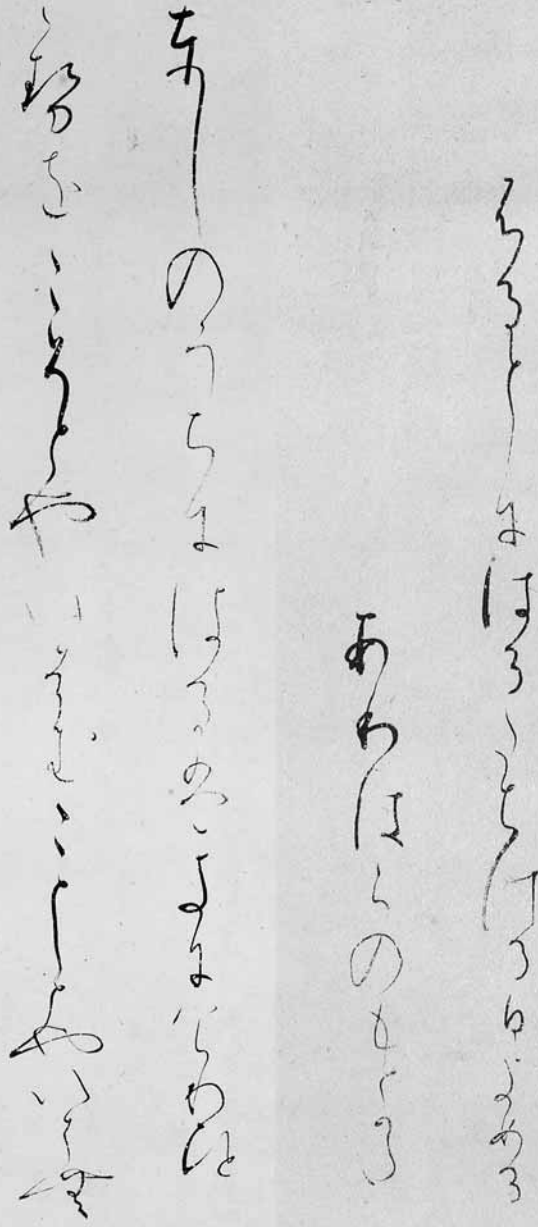
漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の一部-毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) (B. 小品の一部-半切%以上半切以内、全紙%以内も可(A・B縦横自由))

当該古典の上記掲載部分以外も可。

古今倭歌集卷第一

春歌上



(五島美術館蔵)

※掲載図版・70%に縮小
(P56に見やすい図版があります)

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半徳紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
B. A. 大作の部 毎日展覧委員会 会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B. 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。

〈よみ〉

古今倭歌集卷第一 春歌上／ふる
としにはるたぢける日よめる／あ
りはらのもとかた／としのうち
はるはきにけりひと／せをこそ
とやいはむことしとやいはむ

〈解説〉古今集の現存最古の写本が「高野切」である。3人の能書による寄合書きで、
第一種：巻1、9、12、20、序
第二種：巻2、8
第三種：巻13、19

という分担であったと想定されるが、一種と三種の筆者は不明である。(二種は源兼行と判明している)
第一種の書風は優麗典雅という言葉で表されるが、ゆったりとした運筆でふっくらとした線が堂々と書かれてゆく。太細の差は激しいが決して騒がしくない。墨継ぎの効果は群を抜き、遠近感に富む静かな情景が展開されてゆく。

今回は冒頭の漢字の部分も課題の範囲としました。和様の研究材料としてぜひ挑戦して下さい。(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

漢字規定 初段以上 【5月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書



草暖雲昏

よみ (草暖かく雲昏れる)

書体 自由

習い方解説 (1)

辻元大雲

草暖雲昏

(草暖かく雲昏れる)

(李賀)

春のどかな情景。

今回から3回担当します。行書表現で書風を変えて、語句は季節に因む4〜5字句としました。

4月号は春のどかな情景を詠んだ4字句です。褚遂良の枯樹賦を想い浮かべながら、自然なリズムで表現してみました。筆は羊毫中長鋒の和筆を使用。軽やかな運筆で、明るい気分を春らしさに通じる気持ちも込めてみました。
月例競書の特に漢字半紙部門は基本中の基本です。特に上級課題は書体も自由に選べます。普段の学書の成果の一端として、多面的な取り組みを期待します。

※今月のこの課題から「審査委員の部」を始めます。詳細は49ページをご覧ください。〈編集部〉

泰然自若

邑峰書

泰然自若

よみ (泰然自若)

書体 楷書

習い方解説 (1)

大平 邑峰

泰然自若

(泰然自若)

(四字熟語)

落ち着いていて、どんなことにも動じないさま。

楷書と言えば、中国の初唐における書風が基本のようになっています。高校の「書道」の教科書でも、楷書としてまず歐陽詢(九成宮醴泉銘)と虞世南(孔子廟堂碑)が取り上げられています。いずれも整齊な楷書ですが、比較しながら学習することが多いようです。

この度の担当では、楷書を代表する同時代の古典でありながら何が違うのか、なぜ違いが生ずるのかを考え、褚遂良を加えて初唐の三大家を意識しながら進めてみたいと思います。

今月は、歐陽詢がテーマ。強い線で謹直な雰囲気のある楷書を目指してみました。やや側筆で筆先を押していくような運筆を心がけました。

習い方解説 (1)

平川峰子

おのづから来る人あらばもるともに
ながめまほしき山桜かな

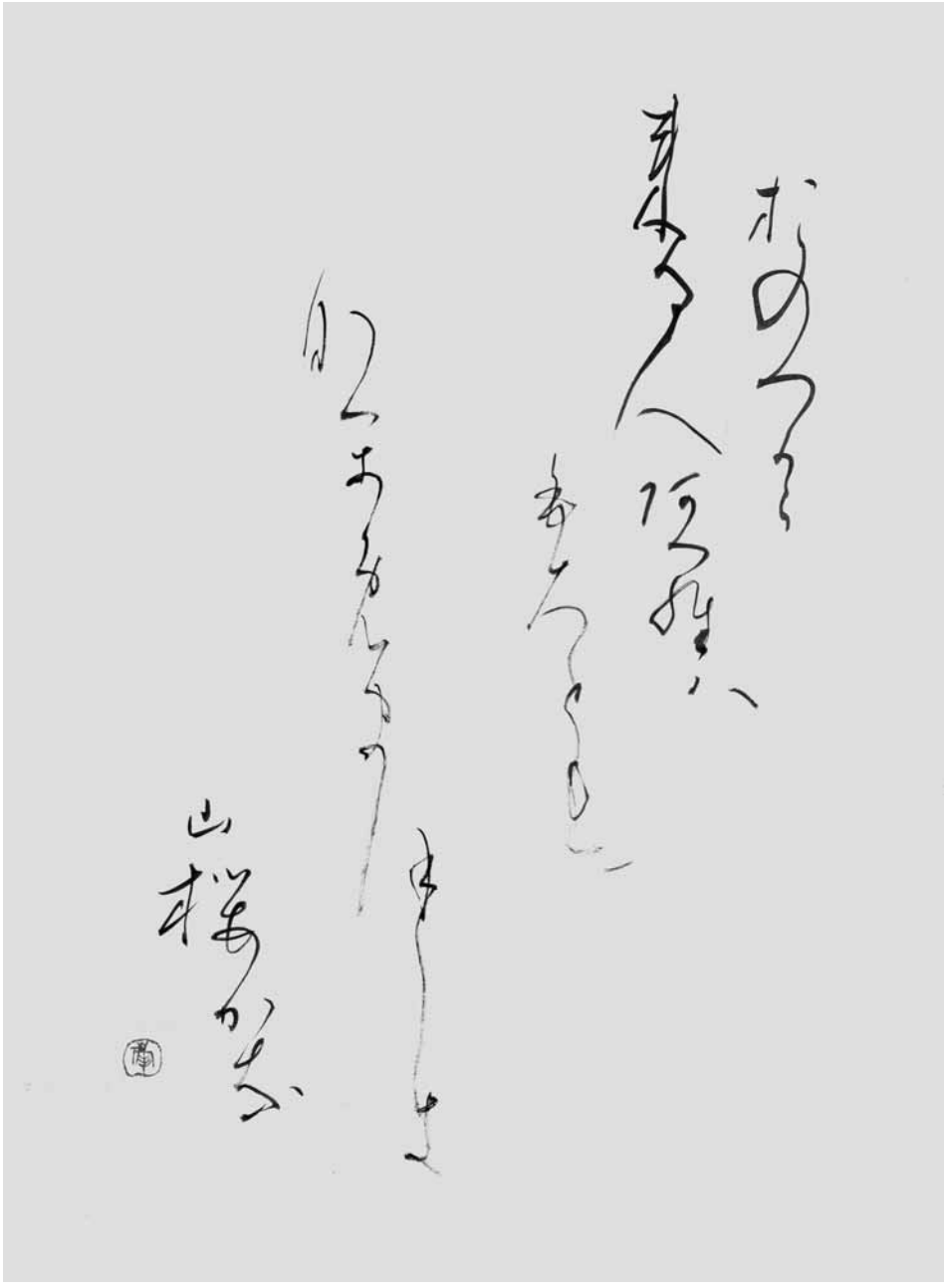
(山家集)

偶然にも通りかかった人がいれば、
一緒に眺めてほしいものだ、この
山桜のすばらしさを。

かな作品の散らし書きの構成では
まず書き始めの位置を考えます。

次に変体がなに置き換えられる文
字を字典で調べながらいくつか候補
を出して各行の長さが同じにならない
ように決めていきます。

今月の課題もその手順で、行頭・
行尾・行間・余白を考慮しながら構
成いたしました。墨継ぎは「山」です。
かなの基本はやはり古筆(古典)
の勉強です。何回も臨書することで
新しい発見があります。実際に筆を
持たなくても「目習い」といって見
るだけでも良いと思います。地道な
努力といえますか古い表現になりま
すが精進を重ねるしか無いと思いま
す。凛とした格調高い作品を書きた
いものです。



よみ方 お(於)のづか(可)ら来る人あ(阿)ら(羅)ば(八)も(毛)ろともに(二)

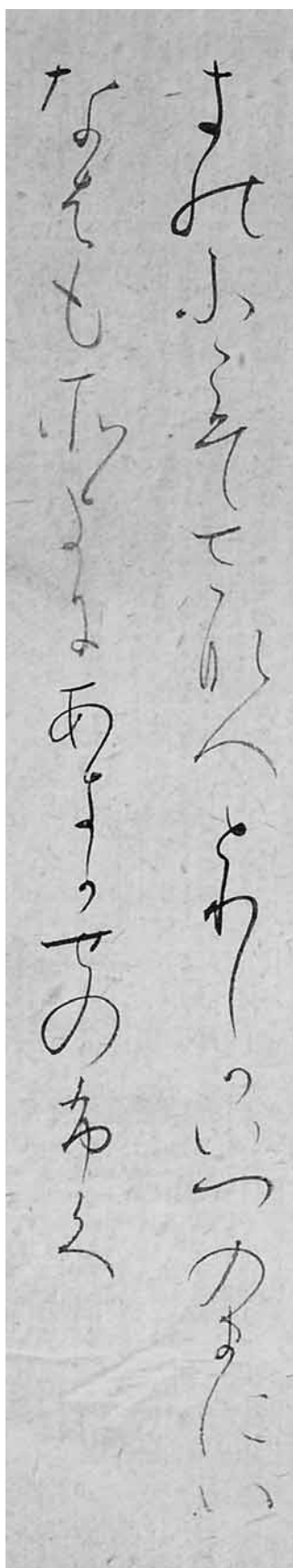
な(那)が(閑)め(免)ま(末)ほ(保)しき(支)山桜かな(奈)

創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切つて下さい。

※今月のこの課題から「審査委員の
部」を始めます。詳細は49ページ
をご覧ください。〈編集部〉

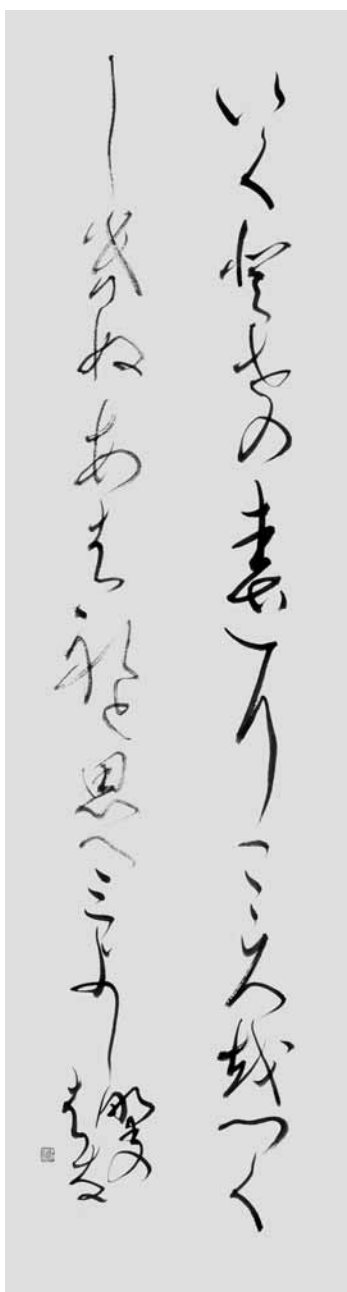
かな規定 秀級以下 【5月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1 $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



よみ方 支能 きのふこそさなへとりしかいつのまに 末
 なばもそよにあきかぜのふく 者所 布久

歌意 早苗を取って田植えをしたのは、ほんの昨日のことだのように思われるが、いつの間にか稲葉をそよがせて秋風が吹き渡ることよ。(稲もそうだと言ってしまうよ。)

かな条幅規定 【5月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可) 須田清子選書



よみ方 いと(登) せ(世) の 春 に 耳 心 こ ころ を 越 つく 久
し 来 幾 ぬ あ は 者 れ 礼 と 思 へ み 三 よ し 野 の 花 者 奈

創作

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

須田清子

いとせの春はるに心こころをつくし来ぬ
 あはれと思おもへみよし野のの花はな
 (藤原俊成「新古今和歌集」)

毎年毎年吉野の桜がいつ咲くのかと春に思いをはせている心情の歌です。構成は2行書きですから、隣りとの文字の大小の組合せの工夫で、作品全体を調和させます。2行目は霞をイメージし、後半近くまで渴筆にして、最後含墨して仕上げました。墨継ぎは「三」です。

漢字条幅規定 初段以上 【5月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

離家三四月 落涙百千行 萬事皆如夢 時々仰彼蒼
予皆如夢時 仰彼蒼

離家三四月 落涙百千行 萬事皆如夢 時々仰彼蒼 (菅原道真)
(家を離るる三四月 涙を落とす百千行 萬事皆夢の如く時々彼の蒼を仰ぐ)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【5月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄選書

春眠不覺曉

蒼玄書

春眠不覺曉 (孟浩然)

(春眠曉を覺えず)

書体||自由

習い方解説 (1)

半田藤扇

今回より、3回担当します。

五言絶句、20文字への挑戦です。線の太細、長短、方向などの変化と、文字をデフォルメさせることでのバランス感覚。線と字形とで造形表現は無限に広がっていきます。

デフォルメする場合は、誤字には十分注意しましょう。

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

千葉蒼玄

春の夜はまことに眠り心地がいいので、朝が来たことにも気が付かず、つい寝過ごしてしまう。

楷書は唐の時代に完成しました。現代の人たちにとっては当たり前前の三折法(起筆、送筆、収筆)ですが、この書き方に至るまでにはさまざま書き方がありました。

唐の楷書の中でも、今回は褚遂良を参考にしました。細身ではありながら、その中に強さと柔らかさを兼ね備えた、強靱な骨のよう線が特徴です。

江は碧にして鳥逾いよ白く
 山は青くして花燃えんと欲す
 今春看すみす又過ぐ
 何れの日か是れ帰年ならん
 杜甫詩「絶句」美泉書

習い方解説 (1)

川村美泉

4月から6月までペン字を担当させていただきます。ともに勉強してまいりたいと思いますので、よろしくお願い致します。

川は深緑に映え、鳥の白さは一段と際立つ。山は緑に輝き、花は燃えんばかりに咲いている。春真っ盛りの中、自分はいつになつたら故郷に帰れるのかと望郷の念を詠んだ杜甫53歳の作。

今まで学習されてきた知識を存分に生かし、楽しくペンをとってみましょう。

① ひらがなは漢字より小さめに。

② 1文字、1行、さらには全体の流れを大切に。

③ 音楽を奏できるようにリズムを取りながら書いて暗誦すると楽しい学書になります。

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体＝自由

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

【注意】

杜甫詩「絶句」○○書

江は碧にして鳥逾いよ白く、
 山は青くして花燃えんと欲す。
 今春看すみす又過ぐ、
 何れの日か是れ帰年ならん。

お花見会のお誘い

日時 四月八日(月)九時開始
場所 地藏尊前の広場にて

遅咲きの枝垂桜が開花しました。
甘酒を用意しますので、是非
ご参加ください。

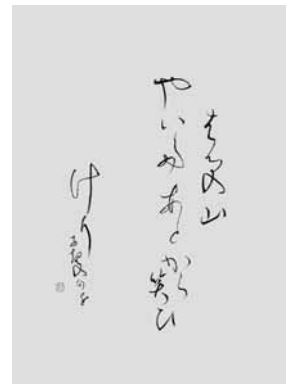
担当 岩垣若翠

お花見会のお誘い／日時 四月八日(月)九時開始／場所 地藏尊前の広場にて
遅咲きの枝垂桜が開花しました。／甘酒を用意しますので、是非／ご参加ください。／担当 氏名

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

かな部 師範 庄司 咏呻

硬軟取りまぜた個性的なリズムに注目した。特に2行目の大きな動きが魅力で、潤濁の扱いても巧み。
◎かな部総評 俳句は、やや大きく太目に書かないと貧相になりました。誤字も少なく安定していました。紙面への配慮も大切に。(洋子評)



漢字条幅部 師範 江本 興舟

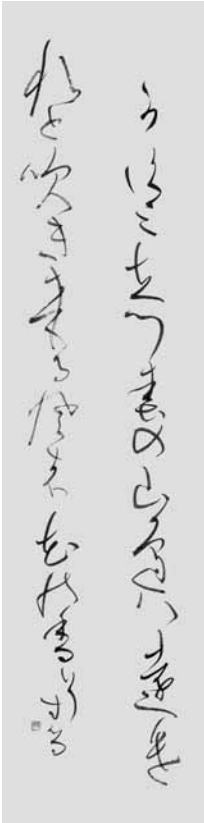
大胆な運筆の中に緻密な心配りがなされた筆致は清潔感を与え、骨力の備わった格調高い作品に仕上がる。



◎漢字条幅部総評 紙面を大きく捉えて書いてほしい。特に行草にはリズム感の乏しいものや、動きが粗雑なものが散見。(石雲評)

かな条幅部 師範 早部 朗

過剰でない表現の主張するところを余すことなく見せられて引き込まれる。さらに格調の高さが佳。



◎かな条幅部総評 よく知っている漢字の誤字、字粒や墨量でバランスを欠くものあり残念。控えめの力を再考されたし。(明子評)

漢字部 師範 西川 藤象

鍛練された技法を駆使した、生命感に溢れ、洗練された上質の線と造形で完成度が高く魅力的な作。
◎漢字部総評 上級は篆書・隸書作品が多く見られたが、技術的な巧拙の差を感じた。基礎的な学習不足が作品に現れる。(萬城評)



前衛書部 特選 渋谷 螢江

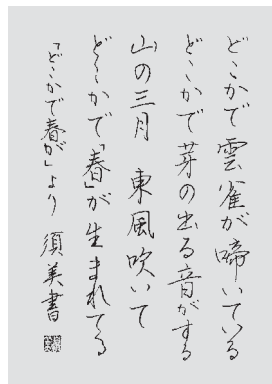
各パーツによるアンサンブル効果や伝わる作品に仕上げ、好感の持てる作品になりました。



◎前衛書部総評 モチーフに豊んだ力作多く見応えがりましたが用紙の選択にもご配慮下さい。(慧香評)

ペン字部 師範 椎木須美子

温雅で丁寧な運筆。行・文字の絶妙な「間」によって詩意が伝わってくるような景色を感じる作。
◎ペン字部総評 濁点が抜けた作品(どこどこ)が散見され残念。書き終えたら、もう一度見直す心のゆとりが大切です。(孝子評)



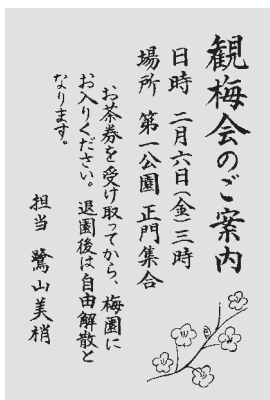
現代詩文書部 特選 板橋 恵泉

季節は冬から春へ辿り燕がやってくる。その待ちわびる気持ちに筆に表われ躍動している。



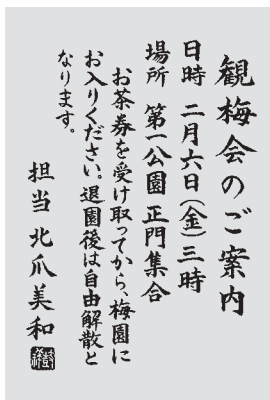
◎現代詩文書部総評 素材のイメージを大切にして魅力的な作品作りを期待しています。(掃雪評)

選評 片岡 豪峰



特選 鷲山 美梢

文字の大小・行間の工夫など、よく考えられていて構成も美しい。



特選 北爪 鼓祥

力強く堂々とした線で、丁寧な書かれていて内容がわかりやすい。

◎實用書部総評

案内文の題材は、どのような構成だと相手に伝わりやすいか。文字の大小の変化・行間の工夫など苦心の跡が見える作が多くあった。(豪峰評)

特選	秀	入選	佳作	落選
大雲 鷲山 美梢 こた 北爪 鼓祥 華仙 菊地 恵水 書泉 永井 伯泉 紅瑤 廣戸 美岐	紅瑤 相澤 敦子 誠和 石崎 甘雨 玉川 佐藤 綾奈 伊呂 鈴木 英晴 千葉 竹浪 叙舟 深大 多胡三代 こだ 四枝 丹 美枝 やま 中込 京花 たか 永見 史筆 もく 本郷 谷恵	倉吉 澄春 吉川 町子 新行内 芳蘭 須藤 秋雨 麗澤 藤本 孝子 耕雲 千本 松和子 吉岡 土井 孝子 瑠韻 林 美奈子 長月 堀江 幸泉 AI 原澤 典子	佳 作 八街 虹川 良子 千葉 安藤 叙孝 幸扇 井上 洋規 土気 白井 綾乃 波川 大竹 紅華 大雲 奥村 美楓 東向 菅野 静代	たか 狼渡 清水 恵風 深大 良子 常盤 杉田 祥風 花祥 須田 香舟 紅瑤 須田 香舟 華祥 高木 昭華 有秋 高橋 千代子 江龍 鶴見 嘉美 江龍 鶴見 嘉美 蒼田 中野 恵美子 水茎 中野 柳明 京橋 永井 柳香 八幡 新上 翠芳 柳賢 二上 香柳 柳賢 二上 香柳 大雲 日高 右真 八街 松山 和枝 芳蘭 山本 和枝 竹美 横山 蘭舟 楓会 吉田 裕 さつ 渡邊 順子

(選外88名氏名略)



青湖 裕子 初江 惠津子 四夏 美汀 倫果 咏艸 淳子

虚を突く構成で感動生む紙面いっぱい線の乱舞が成功異質な線の融合安定創出心象のままが素直に出た覚醒感充分、余白冴える

陸月 藤象 紫炎 華舟 千恵子

心境願う表現が秀逸青と白の世界見事

黄陽 花彩 千華 苑華 陽子

妙味ある文字造形爽快動きのある線。輝き放つ墨色穏やかで安定作モダンで情感豊かな作細線を効かせて空間響く

四英 葵杏 一美 峯樹 龍邑

潤渾太細構成輝く龍の字が句と見事に融合目が釘付け大胆な構成。味が深い

紫喜 美梢 深翠 芳博

情趣のある線質冴える凝縮した線魅力的淡墨の柔らかな滲み佳

選評 山崎 掃雪

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 後藤大峰 石井明子 山口仙草

小品の部

臨書 (華祥社)

岩淵俊雄

「蜀素帖」



136×35cm

岩淵俊雄臨

◆伸びやかな筆遣いでよく原帖を捉えている。墨色にも意を配り蜀素帖の雰囲気表現している。今後の作品創りに反映させて欲しい。(大峰評)

現代詩文書 (大雲)

奥村美楓

「栞」



135×35cm

奥村美楓書

◆心とまかせてくれる作。奇を衒うことのない素直な文字表現、構成が大きく左右する。気持ちを通った実に微笑しい作だ。作者の持ち味である豊潤な線が発揮された作。(石雲評)

前衛書 (月華社)

鈴木采紗

「始まる」



136×35cm

鈴木采紗書

◆気力充実の作で、墨量の変化により緊張感のある作となっている。余白も生かされた味わい深い新しい造形で、訴えてくるものがある。(仙草評)

現代詩文書

(大拙社)

畠中成山「秋元康の詞」



135×35cm

畠中成山書

◆文字の内の余白の孕み(はら)が楽しい。これは多彩な線質、文字の表情によるものだ。ただ気持ち優先しすぎると読みづらくなる。そのせめぎ合いが目を楽しませてくれる。(石雲評)

〈小品の部〉

創作の部(47点)

漢字 4点

かな 3点

現代 25点

篆刻 0点

前衛 15点

臨書の部(44点)

漢字 42点

かな 4点

総出品点数

91点

〈特選候補者〉

(創作の部)

「漢字」

水茎 中野 柳明

「かな」

潮音 齋藤 杏邑

「現代詩」

月華 浅野 黄扇

原澤 雄一

植松 梅田 紅雨

蒼風 笹木 蒼風

四枝 奥川 麗流

蒼原 佐藤 奎山

「前衛」

趙雲 吉田 恵弦

(臨書の部)

「漢字」

澄春 新行内 芳蘭

大雲 阿部 恵泉

八街 十河 春景

春城 東原 春城

八街 相楽 天翔

紅瑤 原島 春汀

澄春 土屋 恵仙

もく 岡部 藤瓊

華祥 玉淵 良章

八街 大日向 幽香

「かな」

蓮紅 千葉 華紅

臨書 (伊呂) 鈴木英晴 「和泉式部統集切」

大作の部

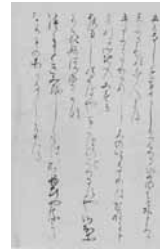
◆原寸をどれほど学ばれたのであろうか？ 拡大して雰囲気損なわない眼力の確かさは美事である。さらに創作作品への展開を望む。(明子評)



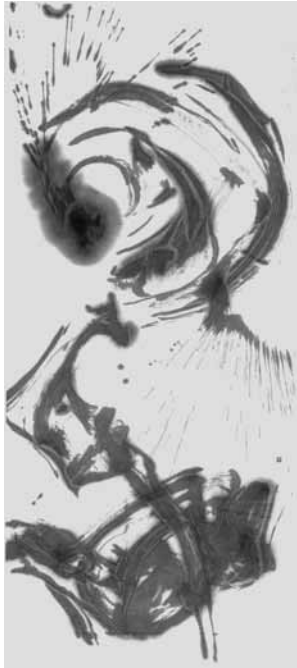
鈴木英晴臨

60×155cm

部分拡大



前衛書

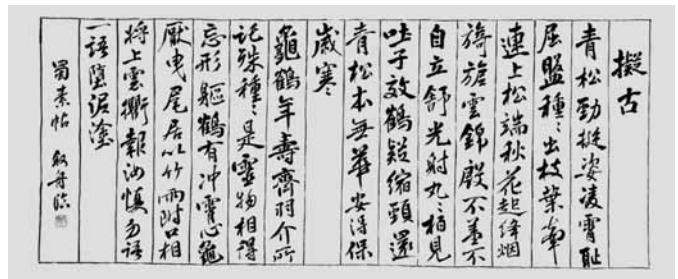


中塩朱華書

140×60cm

(月華社) 中塩朱華 「想」

臨書 (千葉) 竹浪叙舟 「蜀素帖」



竹浪叙舟臨

55×136cm

◆蜀素帖の前半部分、形意ともによく原帖を観察し臨書している。その取り組みを称賛したい。一見してそれとわかる臨書作吗。(大峰評)

現代詩文書 (宗苑) 白井真理 「朧月夜」



白井真理書

70×135cm

◆淡墨で筆の動きが自在の作。潤濁のバランスも良く大胆な表現が生きている。下部の墨量がやや多いか。(仙草評)

◆一見無造作に書かれたように見えるが、急所を捉えての自在さゆえ見る者の心を楽しませてくれる。つい口ずさみたくなる作。(石雲評)

〈大作の部〉

創作の部(25点)	漢字 3点
かな 4点	現代 4点
前衛 14点	臨書の部(18点)
漢字 15点	かな 3点
総出品点数	43点

〈特選候補者〉	松風 西條 松雲
〔創作の部〕	月華 佐藤 光峯
〔漢字〕	紅瑤 竹内 成美
もく 森田 藤谷	秀水 青木 かの
〔かな〕	紅瑤 川田 弘子
水荃 清水 蘭舟	白珠 石澤 徳蓮
光昭 嶋 由香	容洲 阿部 邑里
〔現代詩〕	〔臨書の部〕
玄穹 尾形 紅霞	〔漢字〕
〔前衛〕	紅瑤 金井みどり
大雲 江本 興舟	大雲 江本 興舟
大雲 鷺山 美梢	大雲 鷺山 美梢
大雲 相澤 敦子	大雲 相澤 敦子
大雲 佐藤 希雲	大雲 佐藤 希雲
上泉 早部 朗	上泉 早部 朗

漢字研究部
(蜀素帖)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



玉 淵 良 章

漢字研究部 特選 玉 淵 良 章

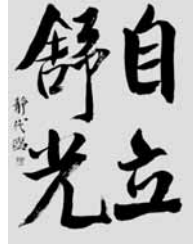
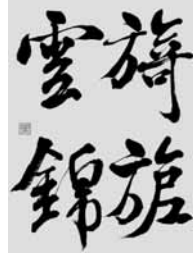
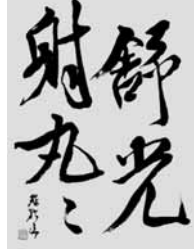
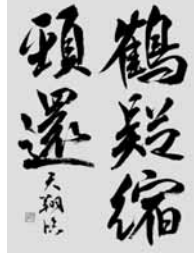
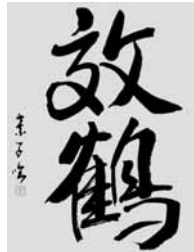
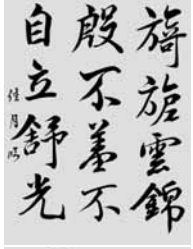
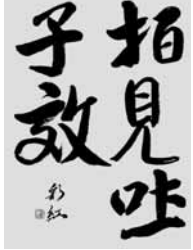
蜀素帖の特徴を的確に捉えています。やや平たい線も見られますが、表現力は抜群です。線質、字形ともにみごとに書き上げられ、品性と温か味が伝わってくる完成度の高い作品に仕上がっています。

◎漢字研究部総評

粗雑な作が多数見られ誠に残念に思います。臨書するにあたっては、それに関する解説を

よく読み理解することから始まります。

蜀素帖の線は圧をかけた太い線、極端に上り上げた細い線が混在します。形は扁と旁の位置関係に変化が見られ、かつ右への微妙な傾きがあり、難しい法帖のひとつです。しかし、習練するにふさわしい古典でもあります。古典には真摯に向き合う姿勢が大切です。



紅佳 恭彩 美藤 霞月 子紅 枝谷

白玲 理喜 佳和 珠天 美泉 秀鈴 翔子

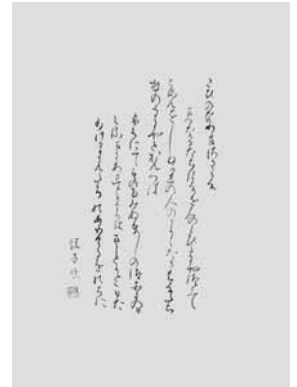
真雅 谷珠 天素 美泉 秀鈴 翔子

靜史 一唯 惠香 代篁 惠一 美柳

かな研究部
(和泉式部続集切)

選評 福田 令子

今月のホープ作品



島 悦子

線に迷いがなく、原本の強さと迫力を、堂々と見事に表現できています。また、軽やかな動きを見逃さない集中力も素晴らしいと思います。
 ◎かな研究部総評
 全体的に、筆圧の変化が少なく、単調な作品が多かったと思います。筆の上下動により、弾力のある線を出すことを意識して、臨書してみましょ

かな研究部 特選 島 悦子



恵藤 恵 子象水
 和玉 令 子 枝子
 洋寿 麗 子 子
 清和 百合子 耀美

かな研究部成績表

高誠	た高	清玉	紅松	秀	こ恵	菁澄	玉書	福波	京波	竹高	高玉	菊も	華清	松清	瑠玉	紅上	高風	大書	紅雲	菊島	特選							
井和	岩真	月松	島松	作(60書)	伊藤	北深	田永	池大	東東	櫻廣	森新	西菊	境清	山縣	萩通	二七	藤五	藤三	藤和	藤悦	藤子	藤子						
櫻田	岩崎	飯島	藍木	作(60書)	藤藤	遠嶋	堀中	井崎	沢沢	田瀬	野新	川地	野野	山縣	萩通	二七	藤五	藤三	藤和	藤悦	藤子	藤子						
和琴	葉都	籬子	白郷	作(60書)	穂信	菁清	耶伯	和淳	花智	幸峻	恵藤	和玉	令洋	美美	子美	子美	子美	子美	子美	子美	子美	子美						
子舟	葵子	郷子	郷子	作(60書)	祥代	湖洗	衣泉	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子	美子						
楓会	明香	高崎	竹美	松村	高真	蓮仙	紅風	上韻	高路	上崎	A泉	I精	有秋	清龍	玉泉	紅川	正瑠	清月	清泉	大雲	上明	瑠漢						
佳	香崎	崎美	美村	村松	真仙	仙紅	風韻	韻路	路崎	崎泉	泉I	I精	秋有	龍泉	泉川	川瑠	瑠月	月清	清泉	雲大	明上	漢瑠						
浅井	矢口	茂木	松有	前川	本津	早美	林岸	根本	中德	寺塚	千本	武山	高橋	高橋	須田	柴林	黒野	葉野	片山	柏谷	小和	禮子						
和江	香登	江舟	翠舟	希美	英代	奈子	抱花	正子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子						
仙光	一も	く入	こま	椿た	一上	大花	長椿	た玉	幸青	桜大	白も	高沙	藤真	書花	明八	た大	こ大	高青	瑠土	華樹	青高	澄千	千青	葉湖	森地	う洞		
熱浅	秋川	青木	吉野	山安	本柳	本多	堀切	平山	浜野	橋野	沼村	中田	富西	戸部	武井	高橋	鈴橋	杉木	篠田	篠田	篠田	篠田	篠田	篠田	篠田	篠田	篠田	
桃翠	なミ	エ漣	桜佳	律真	小智	谷幸	花さ	つ永	紅幸	幸佳	佳恵	白藤	乃み	賢陸	谿谿	祥美	美里	美里	美里	美里	美里	美里	美里	美里	美里	美里	美里	
伊祥	高崎	登春	竹原	青玉	富光	影芳	雪蘭	祥蘭	祥一	秀龍	蒼立	香春	正書	旭老	書遊	大書	生大	椿大	心大	澄誠	橋雅	帝立	八花	蘭日	正八	湖田	堤無	
鈴杉	新宮	新條	佐田	佐藤	櫻坂	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤
英睦	晴枝	瑞華	葉彩	綾奈	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々	木々
選芳	竹美	華仙	幸島	無門	祥紫	青蓮	あ街	生大	声香	白露	千江	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉	黎葉
128	渡山	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本
名氏	信蘭	真真	梅香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香
名氏	信蘭	真真	梅香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香	清香

書展

第14回2024

華祥社書展

千葉紅雪

会期Ⅱ令和6年3月5日(火)

Ⅱ10日(日)

会場Ⅱ東北電力グリーンプラザ

令和6年3月5日から6日間の会期中、東北電力グリーンプラザを会場に第14回華祥社書展が開催されました。コロナ禍もあり、4年ぶりの開催となりました。私は展覧会の開催をとても楽しみにしていたため、初日早々にお邪魔させていただきました。安藤華祥先生はじめ社中の皆さんが「華」というロゴが入ったお揃いのジャンパー姿で温かくお迎えしてくださいました。この素敵なジャンパーは娘さんのプレゼントだそうで、社中の皆さんのこの書展に対する強い意気込みを感じました。

各書展の上位入賞者の作品を含めて漢字・近代詩文書・大字書などの多彩な力作75点が展示され、大胆でかつ、繊細な作品群に圧倒されました。2月に開催された第77回書道芸術院の院賞・

準特選等の作品も並んでいました。会場正面に展示された「思逸神超」の力強い華祥先生の作品には目を奪われ、しばしその場を離れることができました。

今回の書展で特に印象的だったのは、7年前に逝去されたご主人様が作詞なされた「一目千本桜」を華祥先生が揮毫なさった作品。ご夫婦の繋がりの深さを実感した作品でした。会場のあちらこちらに「桜」が活けられて、一足早い春を感じることができました。会場の作品は道路側からも見ることができ、多くの来場者を引き寄せていました。会場全体の熱気が心に響き、皆さんの感動とエネルギーをいただいた展覧会でした。華祥社の益々のご活躍・ご健筆を祈りながら会場を後にしました。



華祥先生の作品を前に

新聞紙に書く書道展

併催「2024 牧泰瀧新聞紙活用

大作書道展」

赤星文庵

会期Ⅱ令和6年2月27日(火)

Ⅱ3月3日(日)

会場Ⅱ大分県立美術館

牧泰瀧先生が書道の全国展に新聞紙に書いた書を発表して世間を驚かせたのは令和3年(2021)のことである。以来今年まで新聞紙を使った。今回は全国、いや世界に新聞紙1ページの書を呼びかけた。台湾や東北、山陰、九州各地から52点の応募があった。会場には小・中・高・一般に分けて展示。牧泰瀧先生は縦6m横50mの壁面いっぱい、1300ページ、2年8ヶ月分の新聞紙に書を書いている。圧巻としか言

い様がない。牧泰瀧先生は38年間の教師生活を小学校の校長で終え、NPO法人書写書道指導者連合会、国東半島あイルネサンス連盟のメンバーとして

牧泰瀧先生は38年間の教師生活を小学校の校長で終え、NPO法人書写書道指導者連合会、国東半島あイルネサンス連盟のメンバーとして



縦6m、横50mの牧泰瀧先生の作品は圧巻であった。

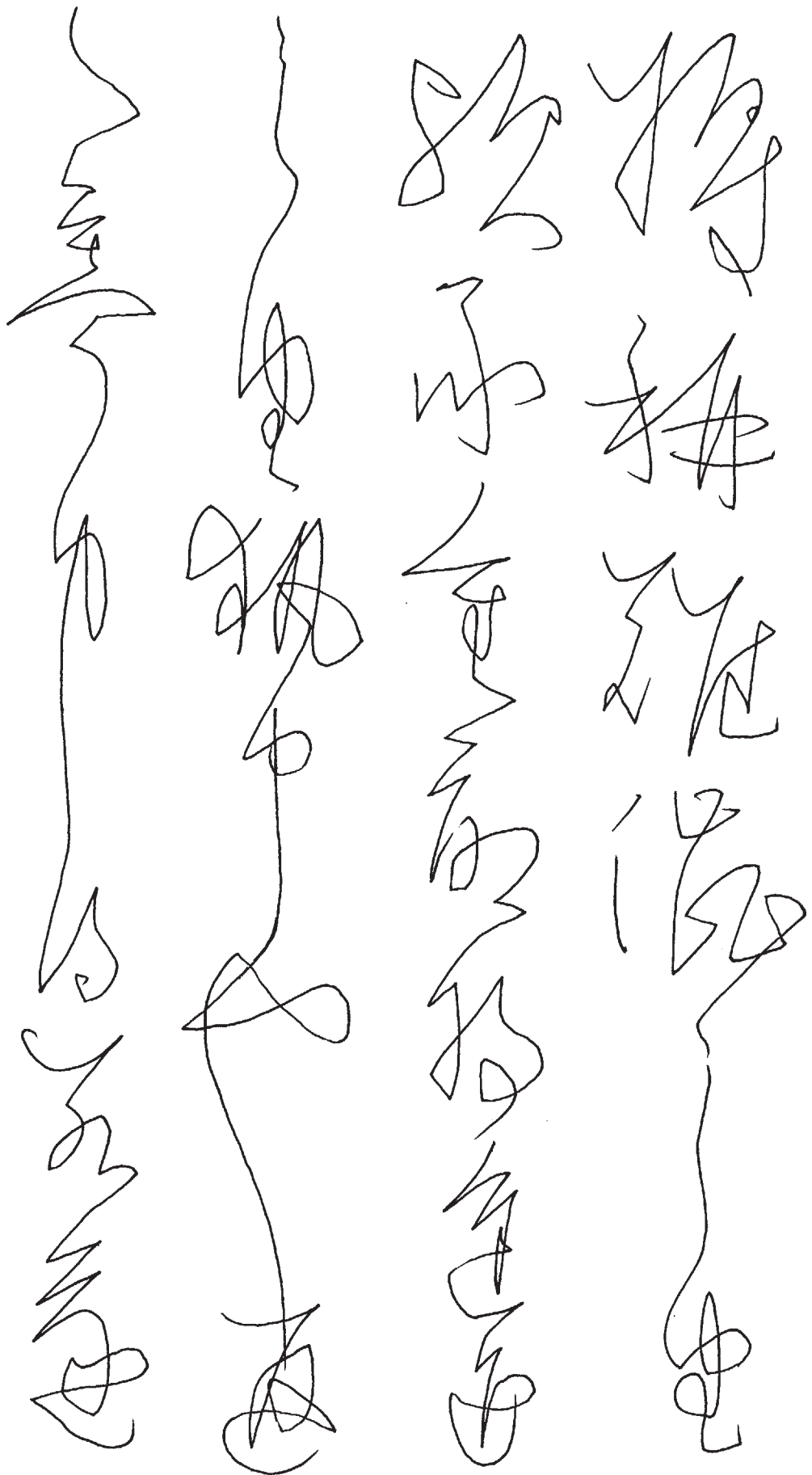


会場には書作品だけでなく新聞紙で作った折り紙や、おみ入れ等も展示されていた。後ろは学生作品。

て書道の普及に努めた。「楽しく書く、書を楽しむ生きる」をモットーに泰瀧書道館を創立した。私は牧泰瀧先生の書の全国展の作品解説を拝聴したことがある。わかりやすく温かく核心をついた解説に目頭が熱くなつた。さすが小学校の先生、とかく上から目線になりがちな解説でなく、今すぐにでも筆を握りたくなるような優しい解説であった。

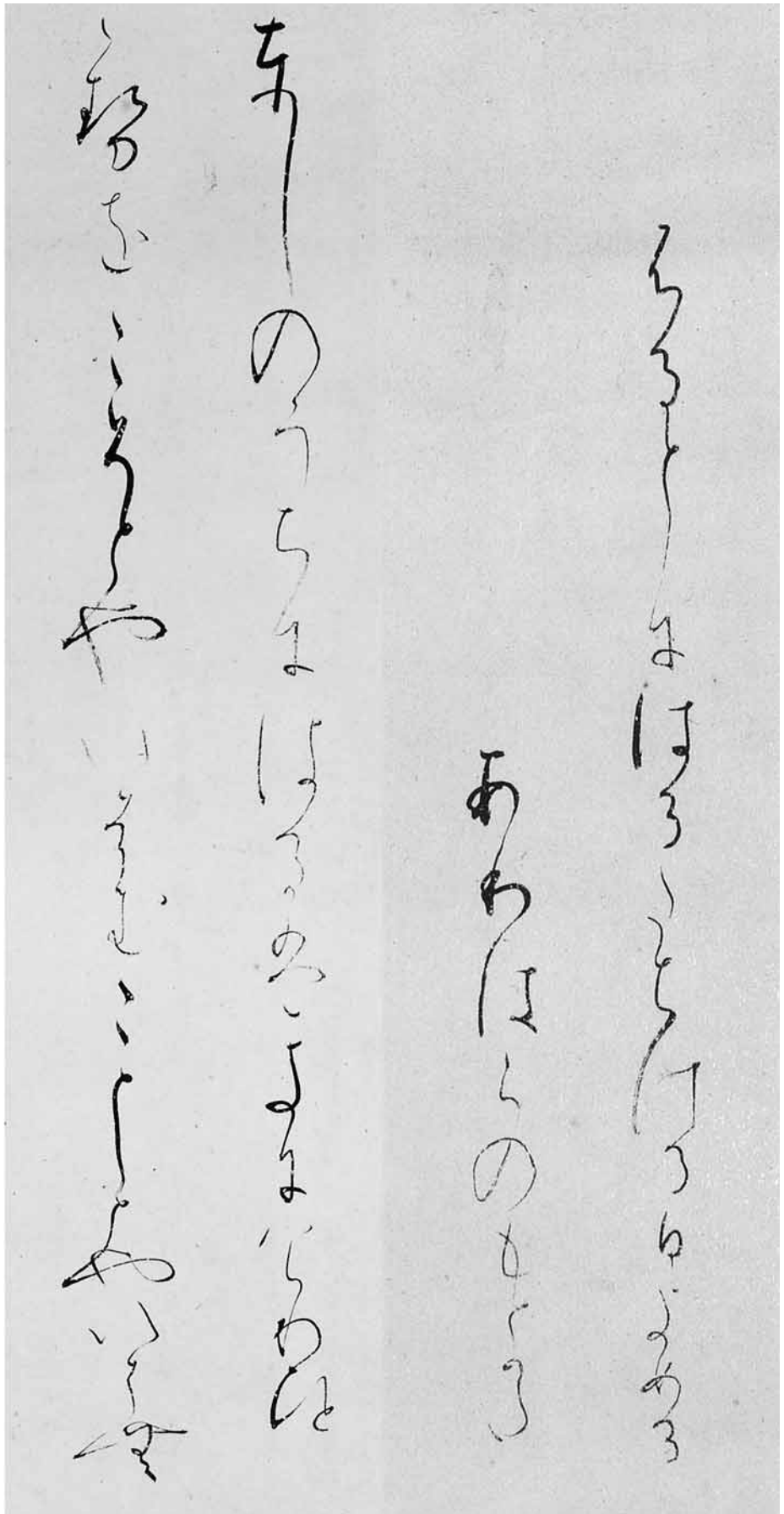
今回の書展では受賞者100名の代表で小1の女兒と一般の部の80歳過ぎの女性が挨拶した。二人とも今後ずっと書を愛し続けるだろうなと思った。地元大分の新聞社も全国紙の社も結集し、紙に筆で書く日本の伝統文化を身近に感じられる大会となった。

牧泰瀧先生の活動拠点は六郷満山と呼ばれる国東にある。今年開山130年を迎えた。牧泰瀧先生の書の道は、まだ始まったばかりとも言える。さらなるご精進を願いながら、私が日豊線の新幹線と呼んでいる特急ソニックに乗って古里大分を後にした。



将称難波之由／歟。承重命、将進返／之由執申也。返／々^返参申侍。若遂

☆P11の「高野切第一種（伝紀貫之筆）」の課題を一部位置を変えて原寸で示しました。ご活用下さい。



巻首と巻名（部立名）の漢字を原寸で示しました。臨書の際はP11に示した原本の図版の位置でお書き下さい。

※規定部の「漢字部門・初段以上」と「かな部門・初段以上」に「審査会員の部」を設ける。

競書出品規定

●規定部

部門	段位位	用紙	書体・内容	漢	字	な	か
				秀級以下 半紙	初段以上 半紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙

●研究部

部門	用紙	書体・内容
漢字研究	半紙	掲載の古典の臨書、文字数自由(掲載部分以外の箇所は不可)
かな研究	半紙 たて び料紙 貼りつ けも可)	掲載の古筆の臨書、歌1首以上を書く、全文も可(掲載部分以外の箇所は不可)

●実用書部

▲出品規定

- 用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$ (24×15.5cm)、B5コピー用紙縦(26×18.1cm)も可。
- 課題 掲載語句を書く。
- 毛筆小筆、筆ペン、サインペンも可。

※規定部から実用書部までは、月別出品券を貼ったバーコード券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

●特別研究部

特別研究作品				作品サイズ	内容
B. 小品の部		A. 大作の部			
臨書	創作	臨書	創作	縦横自由	漢字・かな・現代詩文書・前衛書の各部門の創作作品競書
2. 全紙 $\frac{1}{2}$ (約68×68cm)以内も可 (縦横自由)	1. 小画仙半切以内、半切 $\frac{1}{2}$ 以上	1. 182242cm(8尺) 2. 176185cm(7尺) 3. 1612185cm(7尺) 4. 1512185cm(7尺) 5. 13612185cm(6尺) 6. その他	1. 242cm(8尺) 2. 2185cm(7尺) 3. 185cm(6尺) 4. 151cm(5尺) 5. 121cm(4尺) 6. その他		

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1. 締切日必着厳守
2. 月別出品券を貼付していないバーコード券は認めない
3. 月別出品券のコピーは不可
4. (一)初めて出品のときは「新」
(二)2回目出品のときは「10級欄を参照」
○印は昇級(1級上の級を書く)
(三)「課題違反」「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

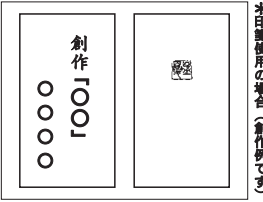
※△印段級誤記入
*記入する数字は、級位は漢数字1、2、3...で書いてください。
*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●前衛書部

半紙縦使用に限る。

●現代詩文書部

半紙縦使用に限る。



▲出品規定

- ① 篆刻
ア. 課題による語句
イ. 原印は自由
(必ず原印のコピー添付)
- ② 創作 語句は自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。

○印箋については市販のものでも、半紙横 $\frac{1}{2}$ の大きさに切ったものでも可。(上の例参照)

○摹刻と創作の両方に出品することはできない。どちらかを選ぶこと。

※「特別研究部」大作の部・小品の部(創作・臨書) 1人1点出品

予告

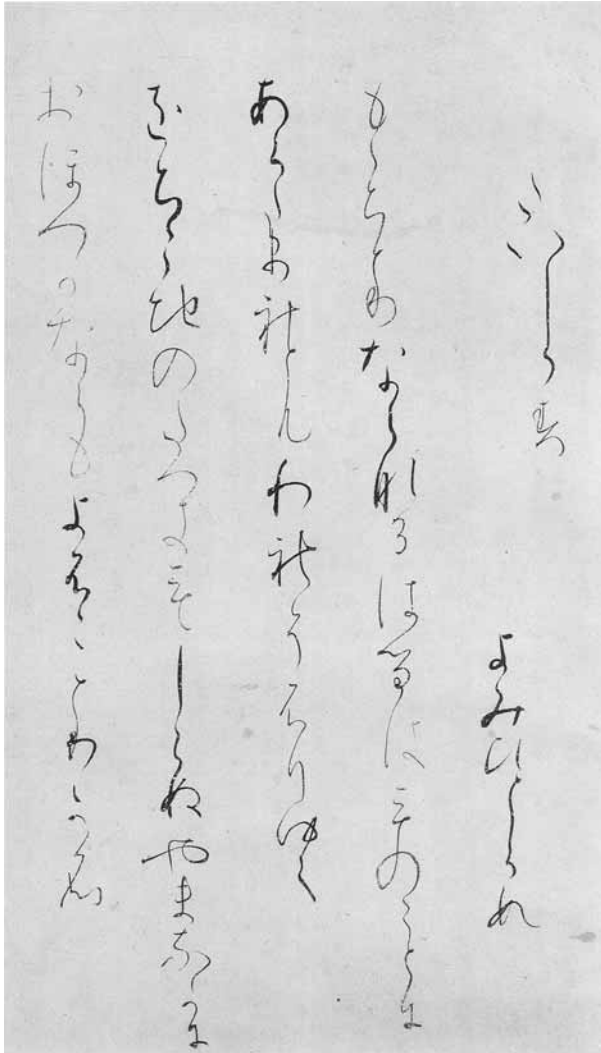
2024・5月号(757)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(6月15日締切)

古筆鑑賞

242

高野切第一種 (伝 ^{きのつらゆき}紀貫之筆) ②



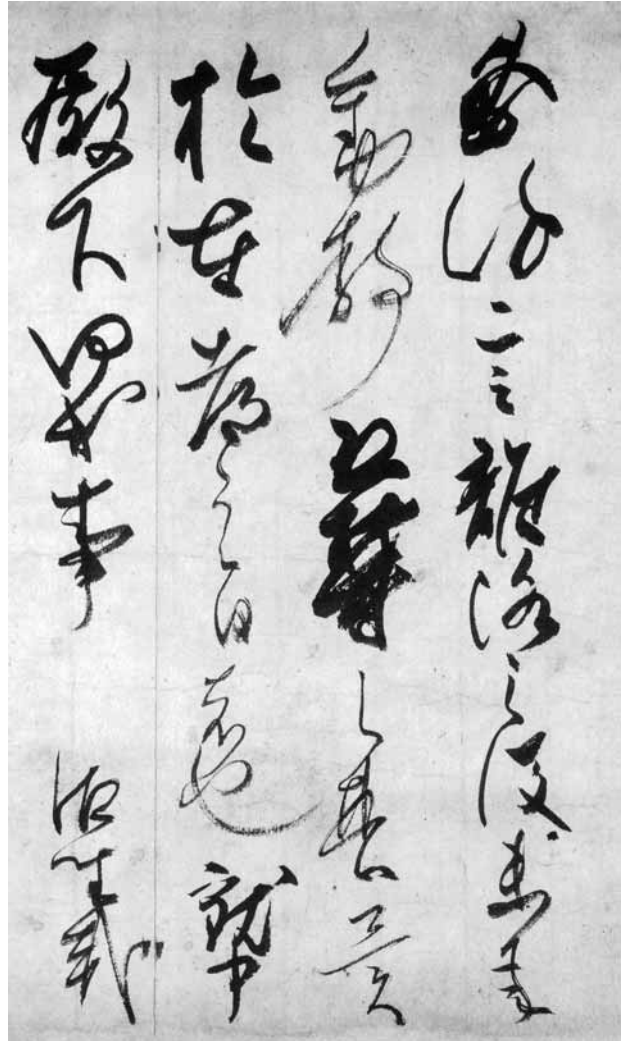
(掲載図版・55%に縮小)

〈よみ〉
だいしらず／よみびとしら
ず／も、ちどりなくなるは
るはものごと／あらたま
れどもわれぞふりゆく／を
ちこちのたづきもしらぬや
まなかに／おぼつかなくも
よぶごどりかな

古典鑑賞

468

佐理書状② (離洛帖)
^{さり} ^{りらくじょう}
_{すけまさ}



(掲載図版・48%に縮小)

△佐理△謹言。離洛之後、未承
動靜、恐鬱之甚、異
於在都之日者也。就中、
殿下何等事御坐哉。

特別昇段級試験

一、しめきり日 4月15日(月)

春季作品募集は、左記の通りです。

漢字 一種、二種
かな 一種、二種、三種
漢字条幅 一種、二種、三種
かな条幅 一種、二種
ペン字 一種、二種
漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

二、応募資格

・一人でいくつの部にも応募できる。
第一種 現段級が特級、10級、新規
第二種 現段級が初段、3級
(4、10級の方は受験できない)

第三種 現段級が準師範、秀級
(優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)
※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は2月号A/74号、45、52ページの写真掲載の中から(指定文字数)を臨書。

漢字部

半紙11たて長に使用

第一種 (1枚)

楷臨書 孔子廟堂碑 (孔子廟堂碑より4文字を臨書)

第二種 (計2枚)

楷臨書 蘇慈墓誌銘 (蘇慈墓誌銘より4文字を臨書)
行創作 循環無極 (龔自珍(循環して極まり無し))
かな部 半紙11たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付けも可。
・かな部臨書・創作はともに落款は印のみも可。
かな・漢字の変更自由。

第一種 (1枚)

臨書 高野切第三種

第二種 (臨・創 計2枚)

臨書 粘葉本和漢朗詠集

創作

それとなく紅杏花みな友にゆづりそむて泣きて忘れ草つむ (山川登美子)

第三種 (臨・創 計3枚)

臨書 関戸本古今和歌集

寸松庵色紙(半紙1枚に1首) ため12.9cm×よこ12.2cmの枠(原寸大)を半紙にとり、その中に書くこと。
・落款は枠外に書くこと。
印のみも可。(枠外に押印)

創作 さびしさのとけてなかれてさかづきの酒となるころふりいでし (若山牧水)

漢字条幅部

小画仙紙半切11たて長に使用

第一種 (1枚)

楷書または行書 創作 萬里奉王事 (本参(万里王事を奉ず))

第二種 (楷・行 計2枚)

楷臨書 皇甫誕碑(皇甫誕碑より14文字を臨書)
行創作 山河風景元無異 城郭人民半已非 (文天祥)

第三種 (楷・行・草 計3枚)

楷創作 滿地蘆花和我老 舊家燕子傍誰飛 (文天祥)
行臨書 争座位文稿 (争座位文稿より20文字を臨書)
草臨書 書譜(書譜より14文字を臨書)

かな条幅部 (料紙可)

小画仙紙半切11たて長に使用
かな条幅部創作の落款は印のみも可
かな・漢字の変更自由

第一種 (1枚)

創作 ふるさとももの傾きて流れ星 (中村草田男)

第二種 (創 計2枚)

創作 小春日やにげた小鳥は何処の空 (寺田貞彦)
創作 髪ながき少女と生まれしる百合に類は伏せつつ君をこそ思へ (山川登美子)

ペン字部

はがきの大きさは白紙11たて長に使用 黒インク使用

第一種 楷書 (1枚)

第二種 楷・行 (計2枚)

作家や詩人などの書が個性的で魅力的なのは、彼らの文学や人生を加味して鑑賞できるからだ。技術を超えた美が存在する。○○書

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。
・創作は○○書と書く。(かな部・かな条幅部は印のみも可)
・臨書は○○臨と書く。(かな部・かな条幅部は印のみも可)
五、受験料

第一種 一、五〇〇円
第二種 三、〇〇〇円
第三種 四、五〇〇円
◆昇段級試験用振替口座で納入。
六、審査結果と昇段級
成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで
第二種は、最高二段まで
第三種は、最高師範まで

七、応募手続
1 出品票はバーコード出品券を使用し、4月号(76号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)
一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。

2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。
団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

3 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。
4 受験申込み締切は3月22日(金) (申込期限を過ぎましたが、希望者は大至急申込を) 申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-17 東神田プラザビル3階 公益財団法人 書道芸術院 書道芸術編集部特別昇段級試験係 (受験番号を記入した個人専用) の応募書類を送付します。

5 応募書類は4月1日以後に整理発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

●篆刻

【5月15日締めきり】

〈出品規定〉

- ①摹刻 (ア)課題による語句 (イ)原印自由 (出品の際、原印のコピー添付)
- ②創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横 $\frac{1}{2}$ の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

4月号 篆刻課題

〈原印コピー〉

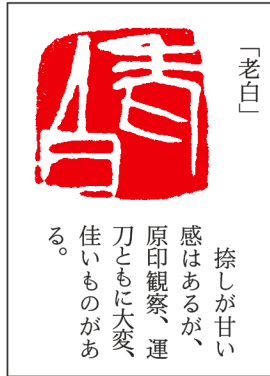


◎出品方法

用紙の右側に押しし、左側に印影の釈文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

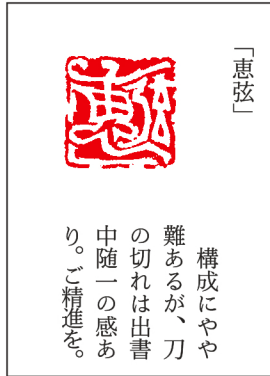
754号篆刻優秀作品

篆刻特選 庄司 櫻空



捺しが甘い感はあるが、原印観察、運刀ともに大変、佳いものがある。

創作特選 吉田 恵弦



構成にやや難があるが、刀の切れは出書中随一の感あり。ご精進を。

◎篆刻部総評

全般にやや、低調な感はありました。特に創作作品にもう少し意欲作を望みたいと思います。さらに研鑽を祈念致します。(大峰評)

選評 後藤 大峰

(篆刻)		(創作)	
特選	秀作(50音應)	特選	秀作(50音應)
蒼原 庄司 櫻空	秀作(50音應) 小沢 華仙	趙雲 吉田 恵弦	秀作(50音應) 唯一 逢沢 唯一
高陵 井上 静香	〃 鷺山 美梢	石心 篠田 華所	〃 生大 中島 義則
芳琴 小野寺幸喜	白琉 平塚 由香	慈空 坂本 覚山	〃 粹仙 藤井 龍仙
遊雲 中川 研治	佳作(50音應) 石心 成田 能喜	石心 篠田 華所	佳作(50音應) 入選(50音應) 遊雲 赤星 文庵
丸山 加藤 妙子	入選(50音應) 丸山 加藤 妙子	入選(50音應) 遊雲 赤星 文庵	入選(50音應) 遊雲 赤星 文庵
水荃 高岡 秀汀	吉原 進	入選(50音應) 遊雲 赤星 文庵	入選(50音應) 遊雲 赤星 文庵
生大 吉原 進		入選(50音應) 遊雲 赤星 文庵	入選(50音應) 遊雲 赤星 文庵

今月の注目作

逢沢 唯一



昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和六年三月二十五日 印 刷
令和六年四月一日 発 行

(毎月一回一日発行) 書 道 芸 術 第七五六号

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)38662-1954
FAX(03)38662-1957

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土日祝日は休み)

送 料

- 1か月の購読部数がある
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は 送料免除

令和六年三月二十五日印刷
令和六年四月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 発行人 下 谷 洋 子

データ処理 株式会社 リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

電話(03)38662-1954
FAX(03)38662-1957
振替 001501411350588
ホームページ http://www.shindou.co.jp/shogei/